

供覽

軍務局長

才三深長

才三深長

出

基隆築港調査委員設置以來小官委員長ノ職ニ當リ先
 般來實地調査ニ着手致美處諸般ノ試験ヲ要スル為ノ意
 外ノ日子ト費用トヲ要スル次第ニ立到申美然レトモ先ツ此ニ調
 査ノ一改良落ヲ告ケ別冊ノ通り報告美調査費追加豫算其筋
 提出致置美ニ甘御参考ノ為ノ大臣及軍令部長ハモ御覽見ニ
 供ハ置度美奈貴官ニ於テ御一覽ノ上御差出相成美様致度
 美也

經理局長

第三課長

明治十九年十一月一日
 第三課長 田少將

山本軍務局長殿

軍令部

第一局

河原

臺灣總督府

別冊ハ基隆築港調査委員ニ於テ先般以來實地調査ノ結果ニ依リ其筋ハ提出シタル報告并調査費追加豫算按ノ寫ニ有之矣處御参考トモ可相成ト存矣条供電臨見
矣也

明治二十九年十一月一日

海軍少將 角田秀松

海軍大臣侯爵西郷從道殿
海軍軍令部長子爵伊東祐亨殿

臺灣總督府

0268

日表ニ當委員ヲ編制セラレシ以來各負致々トシテ調査ニ
従事シ此ニ大体ノ方案ヲ立テ及向後調査ノ方針順序ヲ
定メタルニ付左ニ其狀況報告仕候

先般以來基隆築港ノ調査ニ着手スルヤ先ツ審カニ諛
港ノ内外及陸岸ノ地勢ヲ按シ軍港及商港トシテノ利害
得喪ヲ慮リ屢々精査ヲ經タルノ末委員會ノ議決ニ
依リ別紙圖中朱線ヲ以テ示スカ如キ大体ノ方案ヲ画定セリ
然レモ諛方案ノ果シテ實施シ得ラル、ヤ否ヤハ未タ豫メ期
ス可ラサル所ニシテ今後少ナクモ二ケ年間極メテ精密ノ調
査ヲ遂クルニアラサレハ確定スルコトヲ得ス抑、本島ニ在
テハ良港灣ナキヲ一大欠点トスルヲ以テ築港ノ速成ヲ要ス
ルハ委員ノ最モ希望スル所ナルモ如何セン完全ナル築港ヲ為

第一
第二
第三
第四

サントスルニハ之カ調査上精密ノ試験ヲ要スル事ノ項頗ル多キヲ以テ是等ノ試験ヲ完了シタル後チ充分ノ成算アルニアラサレハ輕々ニ着手スル能ハルナリ今茲ニ其試験ヲ要スルモノノ最モ重ナルモノヲ擧ケレハ左ノ如シ

第一 人造石ノ製造及同沈下試験

第二 量水 海潮干満

第三 海底試験 掘(地質石質)ボーリング

第四 潮流試験

第五 波力試験

第六 風力試験

第七 雨量試験

第八 右ノ外一般ノ氣象觀測

以上諸般ノ試験ニ對シニ二年間ノ長日月ヲ要スル理由ヲ

嘗テクレハ第一人造石ヲ海底ニ沈下シ以テ波濤ニ對スル耐カラ
試ミントスルニハ天候最不良風浪最激烈ノ時ニ於テ波力試
験ト相俟テ始メテ其成績ヲ見ルヘキモノナリ即チ基隆港
ニ在テハ毎年八月ノ末ヲ暴風ノ季節トシ翌年三月
頃ニ至ル迄ヲ常ニ風波荒キノ時季トス故ニ依令今ヨリ
直ニ人造石製造ノ材料ヲ蒐集シ以テ其製造ニ着手
スルモ到底今年ニ於テハ試験ヲ施スノ遑ナキヲ以テ止ムヲ得
ズ明年荒天ノ時季ニ於テセサル可カラス之ニ及シ海底試験
ノ如キハ天候靜穏ノ時ニアラサレバ着手スル能ハス量水及潮
流試験ノ如キモ亦完全ナル平均ヲ得ントスルニハ四季若クハ其
以上ニ直リテ測定スルニアラサレバ其結果ヲ見ル能ハズ其他
風力及雨量ノ試験並一般氣象觀測ハ何レモ皆四季ニ
直リテ之ヲ試ミサルヲ得ス加之以上諸般ノ試験ニ供スル諸機

三
四
五
六
七
八
九
十

械中外國注文ニ係ルモノアルヲ以テ其到着ヲ待テ着手ヤ
サルヲ得サルカ如キ事情モ亦存スルアリ是レ即チ少ナクモ
ニケ年ノ日子ヲ要スル所以ナリ

右ノ如ク試験ヲ要スル事項極メテ多ク又日子ヲ費スル多キ
ト同時ニ之ニ要スル諸器具諸機械並量水番舎ノ建設
其他諸雜費モ亦隨テ多キヲ要シ遂ニ追加豫算トシテ
六万余圓ヲ要求スルノ止ムヲ得サルニ至レリ但豫算ニ對スル
説明ハ別冊豫算明細書中ニ詳悉スルカ如シ
右及報告候也

明治二十九年十月

基隆築港調査委員長南田秀松

臺灣總督子爵桂太郎殿